

# 電気ストーブ火災を防ごう

## 《電気ストーブ火災の実態》

平成29年の東京消防庁管内（治外法権火災及び東京消防庁管轄外からの延焼火災を除く。）の火災件数は4,204件です。このうち電気製品等から出火した電気火災は1,152件（27.4%）で、そのうち最も多いのは、電気ストーブ火災（カーボンヒーター、ハロゲンヒーター及び温風機を含む。）の100件（8.7%）です。電気ストーブ火災のうち亡くなった方8人、けがをされた方32人と、人命にかかわる被害が大きい特徴があります。

これからの季節、電気ストーブを使用する機会が増えます。電気ストーブは見た目は直火（炎）がなく安全そうに思えますが、暖房器具であり、石油ストーブのように高熱を発生することになりはなりません。使用に際しては、燃えやすいものは近くに置かないなど、注意が必要です。

(件)

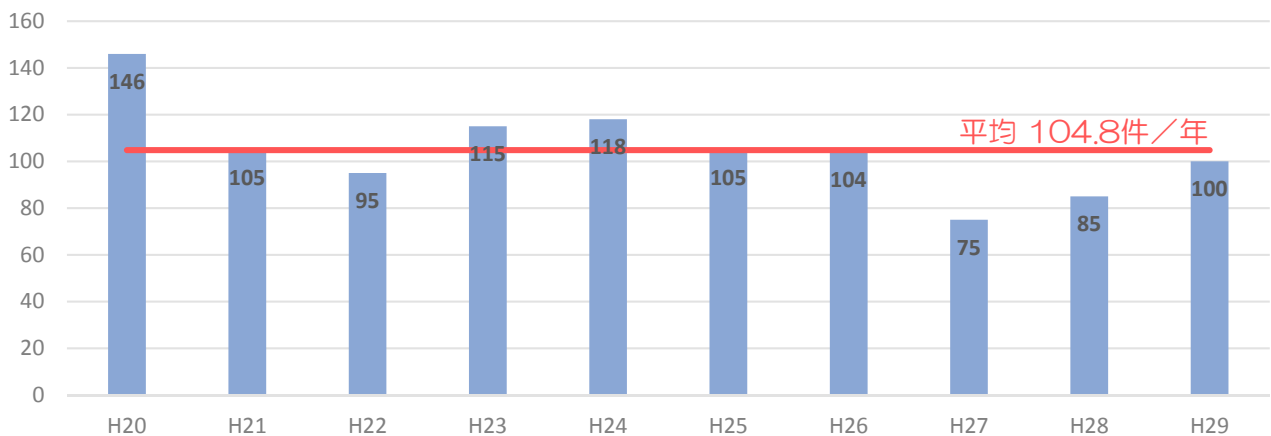


図1 電気ストーブの火災件数の推移

(人)

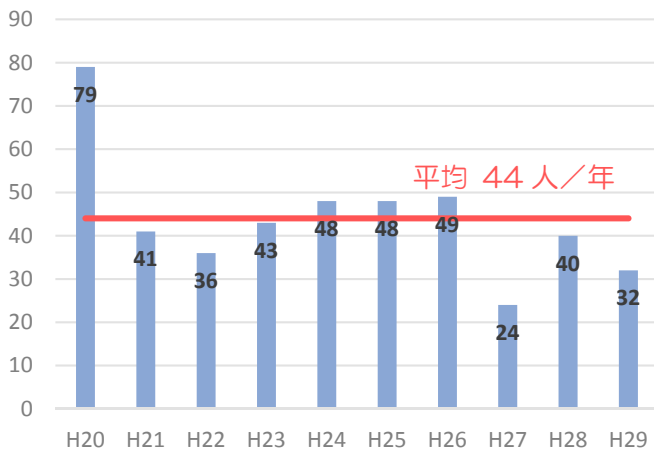


図2 電気ストーブ火災による負傷者の推移

(人)

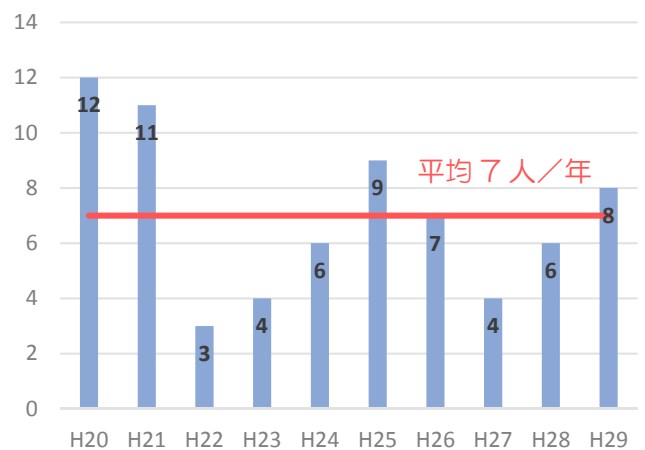


図3 電気ストーブ火災による死者の推移

## 《平成30年に発生した電気ストーブの火災事例》

- 事例1 電気ストーブをつけたまま就寝したところ、布団が電気ストーブに接触し出火した。居住者の60代女性が一酸化炭素中毒により死亡した。
- 事例2 台所で使用していた電気ストーブに、イスの上の座布団が接触し出火した。居住者の40代男性が一酸化炭素中毒の中等症、70代女性が死亡した。
- 事例3 住宅1階の居室内で、使用中のカーボンヒーターに可燃物が接触し、出火した。80代女性が死亡し、建物は全焼した。
- 事例4 20代男性が、使用中の電気ストーブの上に衣類を干したまま外出したところ、衣類が電気ストーブの上に落下し、出火した。
- 事例5 カーボンヒーターをつけたまま就寝し、寝返りした際、掛布団がカーボンヒーターに接触し、出火した。居住者の20代女性が右手及びのどに火傷を負った。

## 《電気ストーブ火災の特徴》

- 死者の70%を75歳以上の後期高齢者が占める。
- 電気ストーブをつけたまま就寝し、布団等に接触する火災が多い。
- 電気ストーブ上にあった衣類等が落下し、接触する火災が多い。
- ぼやでも着衣着火、一酸化炭素中毒により亡くなる方が多い。



写真1 電気ストーブに布団が接触し出火した様子



写真2 電気ストーブにパジャマが接触し出火した様子

## 《電気ストーブ火災を防ぐポイント》

- ◎ 外出・寝る前には必ず電源を切る。
- ◎ 燃えやすい物は近くには置かない。
- ◎ ストーブの上に洗濯物を干さない。
- ◎ 使わないときは電源プラグをコンセントから抜く。
- ◎ 電源プラグやコードが傷んでいたら使用しない。
- ◎ 使用前に取扱説明書をよく読む。

